

タイトル	彙報・活動・編集後記・規定
著者	
引用	年報新人文学(18)
発行日	2021-12-25

〔彙報〕

令和二年度 大学院文学研究科

◆学位論文題目一覧

修士学位論文

●日本文化専攻修士課程

氏名	修士論文題目
真島 毅	天皇の軍隊における絶対服従の論理 ―二・二六事件を事例として―

◆ 授業科目及び担当者 ※非常勤科目は実際に開講した科目のみ

● 日本文化専攻博士（後期）課程

授業科目	担当教員
日本語・思想文化論文指導特殊演習ⅠA	テレンゲト・アイトル教授
日本語・思想文化論文指導特殊演習ⅠB	テレンゲト・アイトル教授
日本語・思想文化論文指導特殊演習ⅠC	テレンゲト・アイトル教授
日本語・思想文化論文指導特殊演習ⅡA	鈴木英之教授
日本語・思想文化論文指導特殊演習ⅡB	鈴木英之教授
日本語・思想文化論文指導特殊演習ⅡC	鈴木英之教授
日本語・思想文化論文指導特殊演習ⅢA	田中 綾教授
日本語・思想文化論文指導特殊演習ⅢB	田中 綾教授
日本語・思想文化論文指導特殊演習ⅢC	田中 綾教授
日本語・思想文化論文指導特殊演習ⅣA	徳永良次教授
日本語・思想文化論文指導特殊演習ⅣB	徳永良次教授
日本語・思想文化論文指導特殊演習ⅣC	徳永良次教授
日本語・思想文化論文指導特殊演習ⅤA	大谷通順教授
日本語・思想文化論文指導特殊演習ⅤB	大谷通順教授
日本語・思想文化論文指導特殊演習ⅤC	大谷通順教授
日本語・思想文化論文指導特殊演習ⅥA	大石和久教授
日本語・思想文化論文指導特殊演習ⅥB	大石和久教授
日本語・思想文化論文指導特殊演習ⅥC	大石和久教授
日本歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅡA	郡司 淳教授

授業科目	担当教員
日本歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅡB	郡司 淳教授
日本歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅡC	郡司 淳教授
日本歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅢA	手塚 薫教授
日本歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅢB	手塚 薫教授
日本歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅢC	手塚 薫教授
日本歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅣA	須田一弘教授
日本歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅣB	須田一弘教授
日本歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅣC	須田一弘教授

●英米文化専攻博士（後期）課程

授業科目	担当教員
欧米言語・思想文化論文指導特殊演習ⅠA	田中洋也 教授
欧米言語・思想文化論文指導特殊演習ⅠB	田中洋也 教授
欧米言語・思想文化論文指導特殊演習ⅠC	田中洋也 教授
欧米言語・思想文化論文指導特殊演習ⅡA	米坂スザンヌ 教授
欧米言語・思想文化論文指導特殊演習ⅡB	米坂スザンヌ 教授
欧米言語・思想文化論文指導特殊演習ⅡC	米坂スザンヌ 教授
欧米言語・思想文化論文指導特殊演習ⅢA	上野誠治 教授
欧米言語・思想文化論文指導特殊演習ⅢB	上野誠治 教授
欧米言語・思想文化論文指導特殊演習ⅢC	上野誠治 教授
欧米言語・思想文化論文指導特殊演習ⅣA	佐藤貴史 教授
欧米言語・思想文化論文指導特殊演習ⅣB	佐藤貴史 教授
欧米言語・思想文化論文指導特殊演習ⅣC	佐藤貴史 教授
欧米言語・思想文化論文指導特殊演習ⅣA	柴田 崇 教授
欧米歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅠA	柴田 崇 教授
欧米歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅠB	柴田 崇 教授
欧米歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅠC	柴田 崇 教授
欧米歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅡA	大森一輝 教授
欧米歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅡB	大森一輝 教授
欧米歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅡC	大森一輝 教授
欧米歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅢA	小松かおり 教授
欧米歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅢB	小松かおり 教授

授業科目	担当教員
欧米歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅢC	小松かおり 教授
欧米歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅣA	仲松優子 教授
欧米歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅣB	仲松優子 教授
欧米歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅣC	仲松優子 教授

● 日本文化専攻修士課程

授業科目	担当教員
日本文学特殊講義Ⅱ	田中 綾教授
日本文学特殊講義演習ⅡA	田中 綾教授
日本文学特殊講義演習ⅡB	田中 綾教授
日本文学特殊講義Ⅲ	中村三春 講師
比較文学特殊講義Ⅰ	テレンゲト・アイトル 教授
比較文学特殊講義演習ⅠA	テレンゲト・アイトル 教授
比較文学特殊講義演習ⅠB	テレンゲト・アイトル 教授
比較文学特殊講義Ⅱ	大谷通順 教授
比較文学特殊講義演習ⅡA	大谷通順 教授
比較文学特殊講義演習ⅡB	大谷通順 教授
日本思想特殊講義Ⅰ	鈴木英之 教授
日本思想特殊講義演習ⅠA	鈴木英之 教授
日本思想特殊講義演習ⅠB	鈴木英之 教授
日本思想特殊講義Ⅱ	大石和久 教授
日本思想特殊講義演習ⅡA	大石和久 教授
日本思想特殊講義演習ⅡB	大石和久 教授
日本語研究特殊講義Ⅰ	丸島 步 准教授
日本語研究特殊講義演習ⅠA	丸島 步 准教授
日本語研究特殊講義演習ⅠB	丸島 步 准教授
日本語研究特殊講義Ⅱ	徳永良次 教授

授業科目	担当教員
日本語研究特殊講義演習ⅡA	徳永良次 教授
日本語研究特殊講義演習ⅡB	徳永良次 教授
比較言語研究特殊講義Ⅰ	寺田吉孝 教授
比較言語研究特殊講義演習ⅠA	寺田吉孝 教授
比較言語研究特殊講義演習ⅠB	寺田吉孝 教授
日本史特殊講義Ⅰ	片岡耕平 准教授
日本史特殊講義演習ⅠA	片岡耕平 准教授
日本史特殊講義演習ⅠB	片岡耕平 准教授
日本史特殊講義Ⅱ	郡司 淳 教授
日本史特殊講義演習ⅡA	郡司 淳 教授
日本史特殊講義演習ⅡB	郡司 淳 教授
環境文化特殊講義Ⅰ	手塚 薫 教授
環境文化特殊講義演習ⅠA	手塚 薫 教授
環境文化特殊講義演習ⅠB	手塚 薫 教授
環境文化特殊講義Ⅱ	須田一弘 教授
環境文化特殊講義演習ⅡA	須田一弘 教授
環境文化特殊講義演習ⅡB	須田一弘 教授
環境文化特殊講義Ⅲ	中村英重 講師

●英米文化専攻修士課程

授業科目		担当教員
英米文学特殊講義 I	渡部あさみ 准教授	
英米文学特殊講義演習 I A	渡部あさみ 准教授	
英米文学特殊講義演習 I B	渡部あさみ 准教授	
英米文学特殊講義 II	森川慎也 准教授	
英米文学特殊講義演習 II A	森川慎也 准教授	
英米文学特殊講義演習 II B	森川慎也 准教授	
英語研究特殊講義 I	上野誠治 教授	
英語研究特殊講義演習 I A	上野誠治 教授	
英語研究特殊講義演習 I B	上野誠治 教授	
英語研究特殊講義 II	米坂スザンヌ 教授	
英語研究特殊講義演習 II A	米坂スザンヌ 教授	
英語研究特殊講義演習 II B	米坂スザンヌ 教授	
英語研究特殊講義 III	田中洋也 教授	
英語研究特殊講義演習 III A	田中洋也 教授	
英語研究特殊講義演習 III B	田中洋也 教授	
英語研究特殊講義 IV	ブシャー・ジェレミ 准教授	
英語研究特殊講義演習 IV A	ブシャー・ジェレミ 准教授	
英語研究特殊講義演習 IV B	ブシャー・ジェレミ 准教授	
欧米思想特殊講義 I	小柳敦史 准教授	
欧米思想特殊講義演習 I A	小柳敦史 准教授	
英米思想特殊講義演習 I B	小柳敦史 准教授	
英米思想特殊講義 II	仲丸英起 准教授	
英米思想特殊講義演習 II A	仲丸英起 准教授	
英米思想特殊講義演習 II B	仲丸英起 准教授	
環境文化特殊講義 I	小松かおり 教授	
環境文化特殊講義演習 I A	小松かおり 教授	
環境文化特殊講義演習 I B	小松かおり 教授	
環境文化特殊講義 II	柴田 崇 教授	
環境文化特殊講義演習 II A	柴田 崇 教授	
環境文化特殊講義演習 II B	柴田 崇 教授	
欧米史特殊講義 III	仲松優子 教授	
欧米史特殊講義演習 III A	仲松優子 教授	
欧米史特殊講義演習 III B	仲松優子 教授	
欧米史特殊講義 I	大森一輝 教授	
欧米史特殊講義演習 I A	大森一輝 教授	
欧米史特殊講義演習 I B	大森一輝 教授	
欧米史特殊講義 II	大森一輝 教授	
欧米史特殊講義演習 II A	大森一輝 教授	
欧米史特殊講義演習 II B	大森一輝 教授	
欧米史特殊講義 III	大森一輝 教授	
欧米史特殊講義演習 III A	大森一輝 教授	
欧米史特殊講義演習 III B	大森一輝 教授	
環境文化特殊講義 I	小松かおり 教授	
環境文化特殊講義演習 I A	小松かおり 教授	
環境文化特殊講義演習 I B	小松かおり 教授	
環境文化特殊講義 II	柴田 崇 教授	
環境文化特殊講義演習 II A	柴田 崇 教授	
環境文化特殊講義演習 II B	柴田 崇 教授	
環境文化特殊講義 III	仲松優子 教授	
環境文化特殊講義演習 III A	仲松優子 教授	
環境文化特殊講義演習 III B	仲松優子 教授	
環境文化特殊講義 IV	柴田 崇 教授	
環境文化特殊講義演習 IV A	柴田 崇 教授	
環境文化特殊講義演習 IV B	柴田 崇 教授	

文学研究科教育・研究発表活動

◎二〇二一年度第一回(全体ゼミ)(修士課程二年・中間報告)
七月三日(土) 10:30~11:30、Z.o.o.mにて開催された。

修士課程二年に在学する一名の院生が次の題目で論文の構想とその内容の一部を発表した(参加者約30名)。

蟬塚 咲衣 「民俗芸能の導入と継承」

◎二〇二一年度第二回(全体ゼミ)(中間報告)

十一月六日(土) 10:00~11:40、本学6号館C31番教室にて開催された。修士課程に在学する三名の院生が次の題目で論文の構想とその内容の一部を発表した(参加者約30名)。

長田 直美 「現代短歌における社会詠の位相―癒し

と救いをキーワードに―」

細川 夏歩 「アイヌ・アriteイストの活動について」

西村 秋桜 「デイズニーヒロインの談話の変容―

「断り」の発話行為から見る女性の談話の変容―」

◎北海学園大学人文学会第九回大会

二〇二一年十二月九日(木) 14:20~16:00

本学34番教室にて人文学会第九回大会が開催された。今大会は片岡耕平先生と丸島歩先生にこれまでの研究成果と展望についてご発表いただいた。

片岡先生は中世の穢れ概念と時間認識を研究されてこられた。今回は「借金の帳消しは、なぜ「徳」政なのか」と題して、チューリッヒ大学在職時から研究を継続されている時間認識について発表された。鎌倉時代から室町時代にかけての徳政の用例を紹介され、時間認識に関する先行研究を踏まえられた上で、徳政令が時間の永続性を断ち切る反復的な時間認識をもつ概念であると解説された。

丸島先生は日本語音声学と日本語教育を専門にされ、発話速度、学習者音声、非日本語母語話者のための日本語、音声のジェンダー差を研究されてこられた。今回は「演技音声の表現にあらわれるジェンダー差のイメージ」と題して、同一女性声優が男性役/女性役を演じ分ける音声周波数・母音フォルマント・イントネーション・性格印象の観点から詳細に分析し、その結果を報告された。

両先生の発表後、活発な意見交換が行われ、教員同士の有意義な研究交流の場となった。

司会・柴田 崇（北海学園大学人文学部教授）

・発表

○借金の帳消しは、なぜ「徳」政なのか

片岡耕平（北海学園大学人文学部准教授）

○演技音声の表現にあらわれるジェンダー差の

イメージ

丸島 歩（北海学園大学人文学部准教授）

編集後記

●『年報新人文』第18号をお届けします。本号は、論文二本、研究ノート一本を収めています。例年に比して少ないのですが、研究ノートも含め、力のこもった論考となっております。執筆された方々、厳正な査読にご協力いただいた方には心よりお礼申し上げます。

●巻頭言は、本学教授大谷通順先生から「ことばの履歴書―「人文」と「文化」と題して、昨今のコロナ禍を巡ることばの使用法が変化している実例を、中国と日本の「人文」と「文化」という語から掘り起こし、それぞれの国の背景により異なった変遷を示していくことを分かりやすくお示しいただきました。

●片岡耕平氏から「日本中世徳政論再考のために―ものほもどらなくても時はうごくかもしれない」という論考を投稿していただきました。片岡氏は昨年度着任されたのですが、コロナ禍でなかなか教員・学生・院生との交流もままならない中で、現在の研究動向のひとつをお示しいただき、氏の研究分野の一端を知っていただけだと思います。片岡氏の主眼は、日本中世社会を特徴付ける「徳政」について、折口信夫の時間論に基づく徳政論の再評価と定義を行ったもので、今後のさらなる進展の期待が持てる論文となっております。

●榎木貴之氏には「平川唯一「英語会話」テキストの分析―後のラジオ講座を踏まえて―」と題した論文を投稿していただきました。現在放送中のNHK連続テレビ小説「カムカムエヴリバディ」のタイトルは、平川のNHKラジオ英語講座の主題歌に由来します。榎木氏は平川の「英語会話」テキストを全号読み通し、その英語や構成を分析されています。ラジオというメディアを通して戦後間もない日本で広く親しまれた平川の英会話テキストと平川以降の英会話テキストを比較し、類似点・相違点を明らかにした興味深い論文です。

●辻見祐太氏からは昨年度に引き続き研究ノートを投稿いただきました。辻見氏は二〇二一年四月に本学大学院文学研究科博士課程に進学されています。今回は「レビ記における「穢れ」の概念」と題して、旧約聖書レビ記における穢れの分類、聖性の概念、穢れの浄めの方法に関する先行研究の動向を詳細にまとめられています。研究テーマに関する先行研究の整理は自身の研究の方向性とポジションを明確にするうえで必要不可欠な作業です。今後も着実に研究成果を発

表し、博士論文へと結実するような研究を進めてもらいたいと思います。

(徳永良次・森川慎也)

『年報 新人文文学』投稿規定

- 一、『年報 新人文文学』は、人文文学に関する広範な分野の研究成果を掲載し、内外の研究交流を図ることを目的とし、年一回発行を原則とする。
- 二、投稿原稿の著者は、人文学部及び文学研究科の所属者でなければならない。ただし編集委員会が認めた場合はその限りではない。
- 三、原稿は日本語、あるいは英語とし、種類と分量はそれぞれ次のとおりとする。
 - ①原著論文で未発表のもの、日本語なら二〇、〇〇〇字、英語なら一〇、〇〇〇字程度。
 - ②研究ノート・資料・報告など、日本語なら一二、〇〇〇字、英語なら六、〇〇〇字程度。
 - ③書評など、日本語なら四、〇〇〇字、英語なら二、〇〇〇字程度。
 - ④その他、編集委員会が必要と認めたもの。
- 四、原稿は編集委員会で厳正な審査を行い、採否を決定する。編集委員会は査読結果に基づき、原稿の一部変更を求めることがある。

北海学園大学大学院文学研究科
『年報 新人文文学』編集委員会